



# MORAMORA

マダガスカル通信 第3号 2022年9月15日

## ココナッツの殻の使い道



Manao ahoana! 前号で出題したクイズを覚えてくれているでしょうか。マダガスカルでは一般的なココナッツの殻の用途とは一体、何でしょう? というものでした。答えは…ブラシ! ココナッツの殻の断面は細かい繊維がたくさん飛び出していて、テーブルを磨くと汚れがかき出されてピカピカになります。その名もずばり「ブルシニココ (ココナッツのブラシ)」。マダガスカルの人々はとってもきれい好きで、ブラシで磨く以外にも、布で拭いたり、床をほうきで掃いたりして、家の中を常に清潔に保っています。

## 突撃! マダガスカルのお家

家について触れた流れで、マダガスカルの家についてレポートします。いつも仲良くしてくれているご近所のミマさん宅に突撃し、取材させていただきました。

まず、ミマ家は土足OK。マダガスカルでは、日本のように靴を脱いであがる家はほとんどありません。すぐに汚れてしまいそうな気がしますが、掃除を欠かさないので、泥やゴミはあまり落ちていません。



人よりも大きく、間近で見るとド迫力。飼っている動物は家によって様々で、僕調べでは一番多いのはニワトリのような気がします。



違いがあるようです。

次に、ミマ家の台所は外にあります。コンロはなく、料理のたびに薪で火を起こします。煙が立ちこめるため、風通しのいい所に作られています。

家の裏ではでっか〜いブタを飼っています。



最後に、ミマ家の構造はレンガ造りです。わが任地・アンズズルベでは、ほぼ100%の家がレンガでできています。主食が米であるマダガスカルでは、稲刈りのあと、田んぼの土を使ってレンガを作ります。ケニアで活動中の同期隊員に教えてもらったところ、ケニアではレンガ造りの家だけでなく、木造の家も多いそう(→)。

同じアフリカでも、国や地域によっていろんな



# あなたの知らない（？）ファマディアナの世界

Famadihana (ファマディアナ) という祭りがマダガスカルにはあります。奇祭として昔テレビでやっていて、派遣中に生で見たいな～と思っていました。しかし、お金がめちゃめちゃかかるため、アンズズルベのような小さな町ではなかなかできる人はいないとのこと。半ばあきらめていたところ、する予定があるという貴重な家族と知り合い、参加させてもらえることになりました。



3日間に渡って歌い踊りつつ、近所の人たちにごちそうをふるまったり、楽団を雇って演奏してもらったりします。たしかにお金がかかりそうな盛大なイベントですが、ここまではふつうの祭りと変わりません。奇祭と言われる所以はクライマックスの3日目にあります。楽団の音楽に乗せ、みんなで踊りながら山の上にあるお墓に移動します。先祖の遺体を取り出して新たな布で包み、みんなで担ぎ、先祖がとび起きそうなくらい激しく踊ります。ダンスが上手で、先祖を愛していて、外国人の僕すら歓迎してくれるほど人のいいマダガスカルの人の特徴が凝縮したような祭りでした。

## マダガスカル式結婚式

派遣中にマダガスカルの結婚式も見てみたいな～と思っていました。しかし、アンズズルベのような小さな町では、葬式はしょっちゅうあるものの、結婚式は首都で行う場合が多く、なかなかする人はいないとのこと。半ばあきらめていたところ、行く予定があるという貴重な人と知り合い、いっしょに参列させてもらえることになりました。



新郎新婦の挨拶、ケーキ入刀などは日本と同じだったのですが、ご祝儀の渡し

方が違いました。受付で渡すのではなく、式の途中にご祝儀タイムがあり、一人ずつ投票箱のような所に入れに行くセルフサービス形式でした。余興コーナーでは家族や友人代表が歌を歌い、会場が和やかムードに。僕も「何か一曲歌って」と無茶ぶりされ、断ったのですが、歌わないと終わらない雰囲気です。ウェディングソングといって思い当たるのは一曲しかなく、恥を忍んで「CAN YOU CELEBRATE?」を歌っておきました。



さて、小学校では3か月に及ぶバカンスが終わり、9月5日に晴れて新年度がスタートしました。子どもたちとの再会をどれほど待ちわびたことか。どんな授業をしようか、考

えるだけでわくわくします。

## 長谷川 太郎

出身：大阪府 職業：小学校教諭

協力隊に参加した理由：帰国後、日本の子どもたちに世界のことを伝えるため。

隊次：2021年度1次隊 職種：小学校教育 任地：アンズズルベ

活動内容：5～6校の小学校を巡回し、各校の先生といっしょに算数、理科、体育などの授業を行う。

